



とらいあんぐる



2013 年 1 0 月

一音会ミュージックスクール発行

「本屋さん」

最近、インターネットの本屋さんが便利なので、よく利用します。

めあての本を、簡単に探し出すことができます。何軒も本屋さんをはしごして、本を探して歩くことも、もうなくなりました。

一歩も歩くことなく、すわったまま、ちょっとクリックするだけで、本を買うことができます。

もちろん、私の子ども時代には、そんな便利なシステムはありませんでした。

歩いて、近所の本屋さんに行くので

す。小さな小さな、町の本屋さんでした。

子ども時代、私にとって最大の楽しみは、その本屋さんに行くことでした。

今、思えば、小さな本屋さんなのですが、家の本棚の何十倍も本がある、その本屋さんは、私にとって、目がくらむような“パラダイス”でした。

自分の家が本屋さんだったらいいのにと、いつも思っていました。

小学校低学年の頃の私は、いつも祖母に本屋さん連れていってもらっていました。

文字通り毎日のように、本屋さんに行っていたのですが、祖母もまた、私

の本好きに、いつも快くつきあってくれました。

他のことでは儉約をする家族でしたが、「本だけは無制限に買ってあげる」というルールになっていました。

また、祖母のポリシーで、図書館や古本屋さんは、利用しませんでした。祖母のポリシーが「本は買うべきもの」だったのです。

「作家さんは、身を削って本を書いているのよ。そして、本を売って生活をしている。もし本が売れなくなったら、作家さんは生活できなくなってしまうでしょう。だから、本は買わなくてはいけないわ。私たちは本を買って、作家さんの生活と才能を支えなければいけないわ」

それが祖母の持論でした。

ですから、もっぱら本屋さんに行くことになります。

しかし、この本屋通い、実は、毎日どころではなかったのです。

まず、私の日課として、学校から帰るとすぐ、昨日、買ってもらった本を読み返します。

昨日のうちに、読み終わり、すでに

何度も読み返しているのも、もう読み返すのは10回目くらいになっています。

そんな様子を見た祖母が

「アッちゃん、本屋さんに行きましよう」

と、誘ってくれます。

「うん！！」

飛び上がるようにして、祖母にくっついていきます。

祖母についていくと、1冊、本を買ってもらえるのです。

「一度に2冊以上、買ってもらうのは悪い」と、子どもなりの遠慮がありましたから、いつも1冊です。

たった1冊ですから、本屋さんでは、あれこれ迷います。

一番優先することは、読むのに時間がかかりそうな本であるということです。ページ数が多い本はお得なので、できるだけ厚い本を探します。

しかし、何度も読み返すことを考えると、ただ量が多いというだけではダメです。何度も読み返して楽しめる本でなくてはなりません。

あらゆる点で私の希望にかなう1冊

を選び抜くのは、たいへんです。選ぶのには、いつも時間がかかりました。

祖母は、せかすこともなく、ニコニコしながら、つきそってくれます。

本好きの祖母こそ、私にいろいろアドバイスをしそうなものですが、不思議とこの時は何もいいません。

私の判断を優先してくれていたのでしょう。

また、本を選ぶ時の幸せな時間を、ゆっくり楽しませたいと思ってくれていたのでしょう。

候補の2冊の間で、長い時間、迷い続けている時は、決められない様子を見た祖母が「両方、買ってしましましょうよ」というのですが、私は断固として、「いいの。1日1冊って決めているから」と、がんばって1冊にしぼりました。

私の家は裕福ではありませんでしたから、本をいっぺんに2冊以上、買うなんていうぜいたくをしてはいけなかったと思っていました。

そして、ハードカバーの本は高価なので、かならず文庫本を選ぶようにしていました。

その1冊を、大事にかかえて、家に帰ります。

なるべく楽しい時間が長く続くように、できるだけゆっくり読もうとします。しかし、先を知りたい気持ちから、ページをめくる手が、どんどんはやくなってしまいます。

あっという間に読み終わってしまうのですが、読み終わった本をひざにのせ、目をつぶって、ストーリーについて、あれこれ想像をする時間も、楽しい時間でした。

時には、こんなこともありました。

いつものように、読み終わった本をひざにのせ、ぼんやりしていると、夕食の支度にかかろうとした祖母が、部屋に来ていいます。

「アッちゃん、おばあちゃんね、うっかり買い忘れたものがあって、お買い物に行かなくてはならなくなったの。いっしょに来てくれる？」

私はまた、祖母についていきます。

祖母はまっすぐ、いつもの本屋さんに向かいます。

「アッちゃん、10分、ここで待っていてちょうだい。おばあちゃんは、

すぐとなりのお魚屋さんで、お買い物
をしているからね」

そういいおいて、祖母は本屋さんか
ら、出ていきます。

私は、10分の幸運に喜び、本棚の
本を次々、出して、次に買いたい本を、
夢中になって選びます。

私が迷った末に、1冊の本を手にし
た、ちょうどそのタイミングで、祖母
がニコニコしながら戻ってきます。

「アッちゃん、どうもありがとう。
おかげでお買い物ができたわ。助かっ
たわ。お買い物につきあってくれたご
ほうびに、この本、おばあちゃんから
プレゼントさせてね」

祖母は私の手にあった本を、買って
くれるのでした。

私は子どもでしたから、この子ども
だましのウソに、毎回、ひっかかって
いました。

私が本を選び終わった、ぴったりの
タイミングで祖母が戻ってくる不思議
にも、買い物をしてきたはずの祖母が
手ぶらである不思議にも、思いいたり
ませんでした。

祖母は、本屋さんの外から、ずっと

私の様子を見守ってくれていたのだし
ょう。

ウソはいろいろでしたが、祖母は上
手に口実を作って、しょっちゅう、2
度目の本屋さんに連れていってくれた
のでした。

時には、夕食後に、3度目の本屋さ
んに連れていってくれることもありま
した。

全然、1日1冊になっていません。

また、こんなこともありました。

前日に買おうかどうか迷った本につ
いて、学校で1日、考え続け、悩みぬ
いて「やっぱり読みたい」と思い、家
に帰るやいなや「はやく、はやく！」
と祖母にせがみ、本屋さんに急いだこ
とがあります。

ところが、本棚にその本がありませ
ん。

「昨日は、ここにあったのに……。
だれかが買っちゃったんだ……」

祖母は、がっかりして涙ぐみそうに
なる私の手を取り、何もいわずに、私
をレジに連れていきます。

すると、本屋のおじさんが、にっこ
り笑って、私のめあての本を差し出し

てくれました。

祖母は、前日に私が買おうかどうか迷っている様子を見て、その本が売れてしまわないよう、私が学校に行っている間にお金を払って、おさえておいてくれたのでした。

「おばあちゃんには、なんでもわかっちゃうんだ。おばあちゃんには、かなわない」と思いました。

高学年になると、一人で本屋さんに行くようになりました。

毎日、来ていますから、もはや本屋のおじさんとは、家族のような親しさです。

おじさんは、私の好みを熟知していて、「アヤコちゃんの好きそうな清張の新刊が入ってきたから、とっといたよ。あと、森村誠一も、最近、評判いいみたいだよ」などと、私の喜ぶ情報を入れてくれるので、ますます我が家のような居心地の良さです。支払いはツケです。

あの、なじみの本屋さんにもむかう時のわくわくする気持ち、本屋さんで1冊を厳選する時の真剣な気持ち、本の内容に期待をふくらませ、家路を急ぐ

時のはやる気持ち、本屋さんにもつわる思い出は、どれも胸おどるものです。

私にとっての本屋さんは、“パラダイス”そのものでした。

今は便利な時代になり、本屋好きの私でさえ、ほとんどすべての本を、インターネットで買うようになってしまいました。

朝、注文した本が、午後には届くのですから、驚かされます。この便利さを手放すことは、おそらくできないでしょう。

しかし、矛盾するようですが、未来の子ども達にも、町の本屋さんの、あの楽しさを、味わわせてあげたいとも思うのです。

(江口 彩子)



◆ピアノ・トライがはじまります

今月末から、「ピアノ・トライ」がスタートします。

先日の申し込み日には、たくさんの方にお申し込みをいただきました。どうもありがとうございました。

申し込み日は過ぎましたが、日によっては、まだ若干、空きがございます。申し込みそびれてしまった方は、どうぞご遠慮なく、本部までご相談ください。早い日程に、まだ余裕があります。〔03-5966-7711：担当・矢島、伊藤〕

またこの時期は、風邪をひきやすい季節でもあり、例年、体調をくずしてしまう生徒さんが少なくありません。当日、体調が悪い場合には、後の日程に振り替えることができますので、どうぞ無理をなさらず、ご相談ください。

現在、確定している「ピアノ・トライ」の日程は、下記のとおりです。

日 程	10月27日(日)(日②)	A方式	進度制限なし
	11月 4日(祝・月)	B方式	初級・中級
	11月10日(日)(日②)	〃	初級・中級
	11月17日(日)(日①)	〃	中級～
	12月 1日(日)レッスンなし	〃	初級・中級
	12月14日(土)(土2・4)	〃	初級・中級
	12月15日(日)(日①)	〃	中級～

会 場 バッハはうす 3階 (長崎2-3-19・長崎小学校手前)

時 間 主に午後の時間帯になります。(11月4日のみ午前あり)
*詳しい時間は、個々にお知らせします。

参加料 A方式：4200円 B方式：2100円
*おつりのないように封筒に入れて、かならず封筒にお名前を書いてください。当日、3階の会場入り口でお支払いください。

その他 当日、風邪などでお休みされる場合、本部(03-5966-7711)へご連絡ください。

その他、お困りのこと、ご不明のことがあれば、ご遠慮なく本部にお電話ください。

ご自分用の楽譜のほか、コメンテーター用に演奏する曲のコピーをご用意ください。コピーには名前をお書きください。

コメントは、後日プリントにてお渡しします。

なお、「ル・コンセール」は、11月24日(日)と12月23日(祝)におこないます。

◆「音楽の集い」を開きます

11月3日(祝)の「音楽の集い」が近づいてきました。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。

出演される方々は、お忙しい合間をぬって、最後の仕上げに向けて日々の練習に励んでいらっしゃることでしょう。

お忙しいおとなの方が、音楽をお続けになるには、なみなみならぬ強い意志と、音楽を深く愛する気持ちが必要です。だからこそ、例年、きく人の心をゆさぶる演奏会になるのだと思います。

まだ足をお運びにならなかったことがない方はぜひ、ききにいらしてください。子ども生徒さんの発表とはまた違った、深みのある演奏にふれることができます。

会場は「ひびきホール」、13:00開場、13:30開演です。入場無料です。お知らせのチラシを、ショパン・ヘンデルはうすの受付前に用意していますので、ご覧ください。

◆アンデルセン先生が来日します

12月に、客員教授のダイアン・アンデルセン先生が来日されます。

コンサートは、12月8日(日)15:00開場、15:30開演、場所は、「ひびきホール」です。今回は、無料のチャリティーコンサートとなりますが、当日の人数把握のため、ご希望の方は、人数をショパンはうすの受付にお申し出ください。

12月11日(水)、15日(日)には、レッスンもおこないます。レッスンをお受けになりたい生徒さんは、ピアノの先生と相談の上、本部にお電話にてお申し込みください。この貴重なチャンスを、一人でも多くの生徒さんがいかして下さることを願っています。

30分レッスン……レッスン料(12500円)＋通訳(2500円)→計15,000円

60分レッスン……レッスン料(25000円)＋通訳(5000円)→計30,000円

ダイアン・アンデルセン先生コンサート

♪ プログラム ♪

ベートーベン 「2つのロンド」

シューマン 「子供の情景」「アラベスク」

《水からの着想曲集…》

ヨーゼフ・ヨンゲン 「オグエン湖の薄明かり」

ドビュッシー 「前奏曲集第一巻・帆（ヴェール）」

エミール・グエ 「アルカッション湾の夜」

アルベール・ルーセル 「水辺での踊り」

ドビュッシー 「嫌な天気だからもう森へは行かない」

学校の生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

* お電話での質問時間は、毎週水曜日の午後7時半～9時半です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。ご質問は、多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。